

## 鹿児島県 大隅半島に生息するシカと演習林での現状

鹿児島県内では北薩と霧島方面、そして島嶼部において生息するシカですが、ごく限られた範囲にしか生息しないと言われてきたここ大隅半島でも、シカが散見されるようになってきており、再生林をはじめとする農林業被害はもとより、生態系に大きく影響を及ぼすと予見される事態の勃発に戦々恐々の状況です。本稿では、高隈演習林におけるシカの確認事例を報告し、対策や考え方について、シカ被害の先進諸賢に広く教えを乞うものであります。

表. 高隈演習林におけるシカの確認事例

年	観察方法	林班	性別	確認回数
1995?	目視	108	-	1
2013	撮影(初)	<u>119</u>	オス	1
2014	鳴き声	112	-	3
2015	撮影、糞、食害	104. 106. 107. 110	オス	7
2016	撮影、目視	104. <u>116</u>	オス、メス	3
2017	撮影、目視	103. 107. <u>119</u>	オス	5
2018	撮影、ツノ	101. <u>116</u> . <u>119</u>	オス	4
2019	撮影	104. <u>119</u>	-	2
2020	捕獲(逃走)	119	未確認	1ほかに糞

演習林では、2007年から野生鳥獣の自動撮影を行っており(上表の下線部)、現在はシカの侵入初期だと考えています。2020年の出来事として、イノシシのくくり罠に捕まったシカが爪先だけ残して逃走した事例と、演習林外の県道を走行中のドライブレコーダーに撮影された事例がありました。また、保護研究室等の協力を得ながら諸調査も開始され、軽微な食害の確認、糞粒による生息域の推定等が進められています。そして僅かながらの対策として、学術参考林の植生調査地の一部にシカネットを張りました(延長120m)。

野生鳥獣の個体数管理には課題が多くあり、とりわけ天敵が存在しないシカを含めた日本の森林生態系と、人間社会との関係をどのようにとらえればよいのか関心は尽きません。モニタリングを継続する一方で、すみやかに対応策を考案しなければならないと認識しています。

